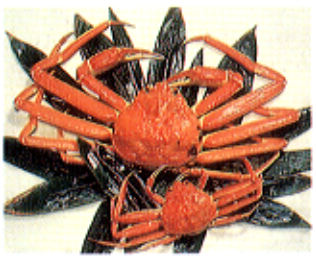
県の魚

『越前ガニ』



荒々しい日本海で培われ、福井の味として広く定着しており冬の味覚の王者として親しまれています。

（平成元年３月指定）

■ 昆　　虫

県下各地域の昆虫相は、現在、なお豊かさを保っています。しかし、その変貌は著しく、昭和10年頃に各地で見られた大型昆虫の中には、激減したものが少なくなく、クロツバメシジミなど、その姿を全く見ることができなくなったものさえあります。

これらの昆虫は、植物の受精を助けたり、県民に四季の変化を感じさせるなど、県土の豊かな自然環境の大切な構成員として重要な役割を果たしています。

■ 魚 類 等

特色ある淡水魚では、大野市本願清水の陸封型イトヨ、九頭竜川中流域に生息するアラレガコが知られています。また、イワナ、ヤマメ、アマゴなどの上流河川に住む魚類は、各地に見ることができ、近年、九頭竜川では放流したサケの回帰も見られます。

両生類では、国指定の特別天然記念物のオオサンショウウオが県下でも発見されています。また、モリアオガエルは各地で見ることができます。

爬虫類では、分布が限られているシロマダラが見られます。

アメニティ・トピックス

〈福井県の地名のついた昆虫〉

●フクイアナバチ

1953年、福井県で発見された後、約30年間その生存が不明でしたが、数年前より、再び福井市郊外や坂井郡で確認されています。



●ヤシャゲンゴロウ

今庄町夜叉ケ池だけに生息が知られており、メススジゲンゴロウに近い固有種と近年認定されています。



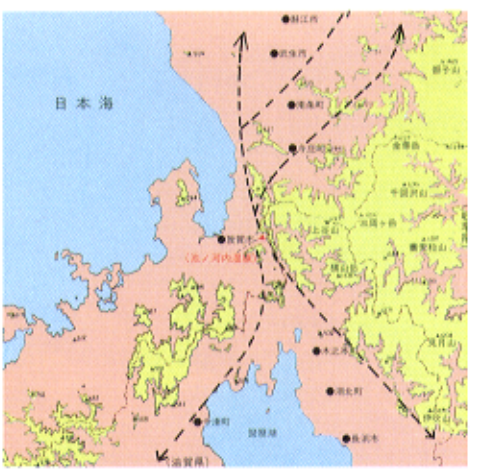
（資料:自然はともだち－ふくいの昆虫－）

〈トンボの渡る道－「湖北・敦賀回廊」〉

丹生山地や丹南地方から滋賀県湖北地方への経路は、古くからツグミやタカなど、鳥類の「渡りコース」として知られていますが、昆虫の「トンボ」にとっても重要な渡りコースであることはあまり知られていません。

大阪の尾花らの「ルリボシヤンマやハネビロトンボ等の研究（1969）」によると、敦賀市池ノ河内湿原は、『東北日本と西南日本を結ぶ位置』であることを指摘し、この周辺地域のことを**「湖北（敦賀）回廊」**と呼んでいます。

これは、良好な湿原があるばかりではなく、周辺のクヌギやミズナラなどの広葉樹林がよく残されている影響だと思われます。



（資料:ふるさと福井の自然－第２号－）